

三宅島の自然と環境の保全を要望する決議

三宅島は伊豆諸島のほぼ中央に位置し、学術的に重要な島である。特に1964年には、富士箱根伊豆国立公園に編入され、自然環境の保護がなされてきた。

日本政府は1983年、アメリカ政府の要請をうけて米空母艦載機訓練基地の三宅島への建設計画を公表した。それは島民の生活に重大な影響をおよぼすものであり、島民の大多数が艦載機訓練基地建設計画に反対している。各種学術団体もまた艦載機訓練基地建設が三宅島の環境を著しく悪化させ、それが学術的観測、測定、演習および研究に大きな支障をもたらすのではないかと懸念を表明している。本シンポジウムにおいても、各分野から同趣旨の報告がなされた。

地質学の立場から、1983年に噴火した活火山、三宅島の観測と研究および生きた自然史モニュメントとしての意義が述べられた。

生態学の立場から、バードアイランドと呼ばれるように、三宅島には天然記念物のアカコッコをはじめ200種以上の野鳥が生息しており貴重な動物・植物相をなしている。

海洋資源学の立場から、三宅島近海は黒潮の通り路であり回遊魚などの好漁場である。

農業論や地域振興の立場から、艦載機訓練基地の建設は島特産のキヌサヤエンドウなどの農産物や花卉園芸の発展に大きな打撃になることが指摘された。

地方自治の立場から、住民の大多数が艦載機訓練基地建設に反対している民意を政治に生かすのが民主主義の基本原則であり、また、国立公園内に艦載機訓練基地建設は許されないことが指摘された。

緑の島三宅島、東洋のガラパゴスともいわれる三宅島は、さまざまな学術分野の研究対象として特筆すべき島である。この三宅島に艦載機訓練基地を建設することは三宅島の自然と環境を著しく破壊する恐れがあり、と同時に憲法の基本原則である民主主義を否定することになる。わたしたちは三宅島の自然と環境を日本国民の、いな地球の宝として、次の世代に継承すべき責任と義務がある。

1988年6月11日

学術シンポジウム「三宅島の自然と環境」参加者一同